

オール沖縄・日本共産党衆議院議員 沖縄1区選出

# あかみね政賢 国会だより

月刊 No.10

【九州沖縄ブロック事務所沖縄分室】  
〒900-0016 那覇市前島3-1-17  
電話.098-862-7521 FAX.098-862-7735

【国会事務所】〒100-8981 千代田区永田町2-2-1  
衆議院第一議員会館1107号室  
電話.03-3508-7196 FAX.03-3508-3626



岸田首相に質問する赤嶺議員

## 辺野古側工事 想定10倍 無条件撤去を岸田首相に要求

通常国会が開会しました。赤嶺政賢議員は2月26日の衆院予算委員会で辺野古新基地建設問題を取り上げ、岸田文雄首相を追及。水深の浅い辺野古側の埋め立て工事でも想定10倍の期間を要し、軟弱地盤が広がる大浦湾側の長期化は必至だとし、普天間基地の無条件撤去を求めました。

率を99.5%と明らかにしました。赤嶺議員は、辺野古側は当初、半年あまりで完了する計画だったのに、10倍の5年もかかっていると指摘。大浦湾側の地盤改良は前例のない難工事だと強調し、「完成まで12年という」計画通り進められると言うなら、具体的な根拠を示すべきだと迫りました。

辺野古側の土砂投入が始まったのは2018年12月。木原稔防衛相は直近の進捗を「過去に比べて見通しをされている」と答弁。赤嶺議員は「これまでの経験を言うなら、辺野古側の期間が10倍のペースだ。このペースだと基地完成に120年かかることになる」と反論。

「『辺野古が唯一』との固定観念から抜け出さない限り、普天間基地の返還は実現できない」と強調しました。

厚生労働省が2003年から実施してきた沖縄戦戦没者の遺骨のDNA鑑定件数

(2023年12月末現在、単位=件)

年度	申請者数	鑑定件数	内訳(※)	
			判明	否定
2003~15	91	90	4	86
16	352	301	0	301
17	317	17	1	16
18	86	350	0	350
19	314	50	0	50
20	64	57	1	56
21	287	201	0	201
22	109	203	0	203
23	96	268	0	268
合計	1716	1537	6	1531

(※)「内訳」のうち、「判明」はDNA鑑定の結果、身元が特定された申請者(遺族)と遺骨の数、「否定」は身元が特定されなかった申請者(遺族)の数

### 遺骨残る土砂 使用中止を

赤嶺議員は、戦没者の遺骨が残る沖縄本島南部の土砂を使用する計画を批判。厚労省のDNA鑑定に1700人以上の遺族が申請し(表)、「いちいちの望みをかけて遺骨を探し続けている」と強調し、土砂採取の中止を求めました。

赤嶺議員は、嘉手納基地周辺のPFAS汚染も取り上げ、基地への立ち入り調査の実現を4月の日米首脳会談でバイデン大統領に直接働きかけるよう迫りました。

岸田首相は「土砂の調達先は現時点では確定していない」と答弁。赤嶺議員は「発注者である政府が調達先から除外しない限り、南部の土砂が使用されることになる」と批判しました。



2月はプロ野球のキャンプで、沖縄も賑わった。孫は楽天のキャンプで、複数の選手からサインをもらって、すっかり楽天ファンになっていよ。よいよあとか一月で、小学2年生に進級する。この時期は、深刻な教師不足を心配する季節でもある

▼公立学校の教員の給与は国と都道府県が2分の1ずつ負担していたが、小泉内閣の時代に国の負担割合を3分の1に減らし、自治体の教育財政の基盤が脆弱なものとなった▼こんな政治が教師不足の原因となり、いま教師の非正規率は2割に上っている▼国の教育政策を大本から変えるために、じーじーも国会でしっかりと頑張りたい。

# 教師の負担軽減を スクールカウンセラーなどの 常勤配置を求める

赤嶺政賢議員は2月28日の衆院予算委員会第4分科会で、沖縄県の教師不足の問題などについて質問しました。

ラー、スクールソーシャルワーカーの常勤配置です。文科省の調査では、教員からの相談が3割超に上ります。ところが非正規で、1校あたり週1回の巡回にとどまります。

赤嶺議員は質問に先立ち、沖縄県教職員組合から実状を聞き取り。教員不足の要因の一つに精神疾患による病休者が多く、メンタルヘルス対策が求められているとのことでした。

常勤配置を求めた赤嶺議員に、盛山正仁文科相は「教師の負担軽減のためにも有効」「来年度予算で1万校への重点配置を計上している」と答弁しました。県の来年度予算でも、配置の拡充



文科相(左)に質問する赤嶺議員

に2億弱を増額しています。赤嶺議員は国が大幅に教育予算を増やすべきだと強調。給特法(教員給与特別法)の廃止や抜本的な少人数学級の推進についても強く求めました。

## この間の活動

■辺野古前大行動で挨拶。渡久地修県議を励ます集いで挨拶(2月3日)



■上原トワイチロー県議予定候補と糸満市で街頭演説(同4日)

■うりずんの会で沖縄県私立幼稚園連合会の要請を受ける(同5日)

■沖縄戦激戦地土砂の埋立使用阻止2・6緊急防衛省交渉に参加(同6日)

■税務調査を巡って沖商連の政府交渉に同席(同7日)

■党県議らとうるま市石川の陸自訓練場予定地を視察(同10日)



■安保破棄全国代表者会議で挨拶(同14日)

■上原トワイチロー県議予定候補を励ます集い、玉城武光県議を励ます集いに参加。比嘉瑞己県議と那覇市内で街頭宣伝(同17日)

■「9条の会」[総がかり行動実行委員会]共催の憲法集会で挨拶(同22日)

県議会では経済労働委員会の委員として、主に農業・畜産・漁業という一次産業の振興に努めました。例えば、農産物輸送費の補助、県農作物種苗生産条例の制定、県漁連卸売市場の糸満市移転等、農畜水産業への支援強化、販

路拡大です。赤嶺政賢衆院議員と力を合わせて取り組んだ案件や実績について、国の一括交付金の減額で、農林水産物の県外や北部・離島地域から本島への輸送費を補助する「農林水産物条件不利性解消事業」の予算が減っています。赤嶺議員に取り上げてもらい、交付金の増額を求めました。また、米軍への提供水域(国頭や大東島海域等)問題では、その返還を求めてきました。



玉城武光県議

## 国政と県政をつなぐ① 玉城武光 県議会議員に聞く

日本共産党との出会いと県議会議員になる経緯について

復帰後の1975年、沖縄国際大学(夜間部)の学生時代に入党。卒業後、県委員会の専従として活動し、40代前に具志頭村議に、合併後八重瀬町議として通算6期務め、8年前に県議会議員に。3期目をめざしています。

県議会議員として2期8年、取り組んだ案件や実績について

日本の食料自給率の低さは深刻な問題です。引き続き、農業・畜産・水産業の振興と地域振興に努め、平和で豊かな沖縄をめざして、玉城県政を支え、赤嶺議員とも力をあわせて頑張ります。

### 編集部より

新企画「国政と県政をつなぐ」をテーマに7名の県議選予定候補者に聞くシリーズです。